



NTT Communications Corporation Sustainability Report 2023

CONTENTS

トップコミットメント

事業戦略

私たちが目指す社会

特集

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティ

サステナブルな未来を創造する企業グループを目指して

サステナビリティ基本方針と「まだ見ぬコミュニケーションの創造」

サステナビリティマネジメント



社会



環境



人材



ガバナンス

第三者保証

企業情報

サステナブルな未来を創造する企業グループを目指して

NTTコミュニケーションズグループは、ますます深刻化する気候変動問題をはじめSDGs/ESGを巡る内外の動向やそれらに伴う事業環境の変化、未来社会を支える先端技術の動向などを踏まえ、2021年5月、従来の「CSR基本方針」を改定し、「サステナビリティ基本方針」を策定しました。

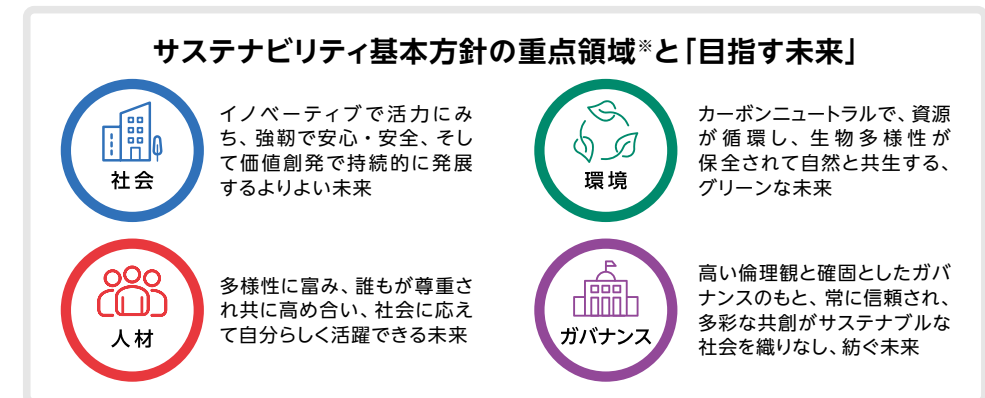
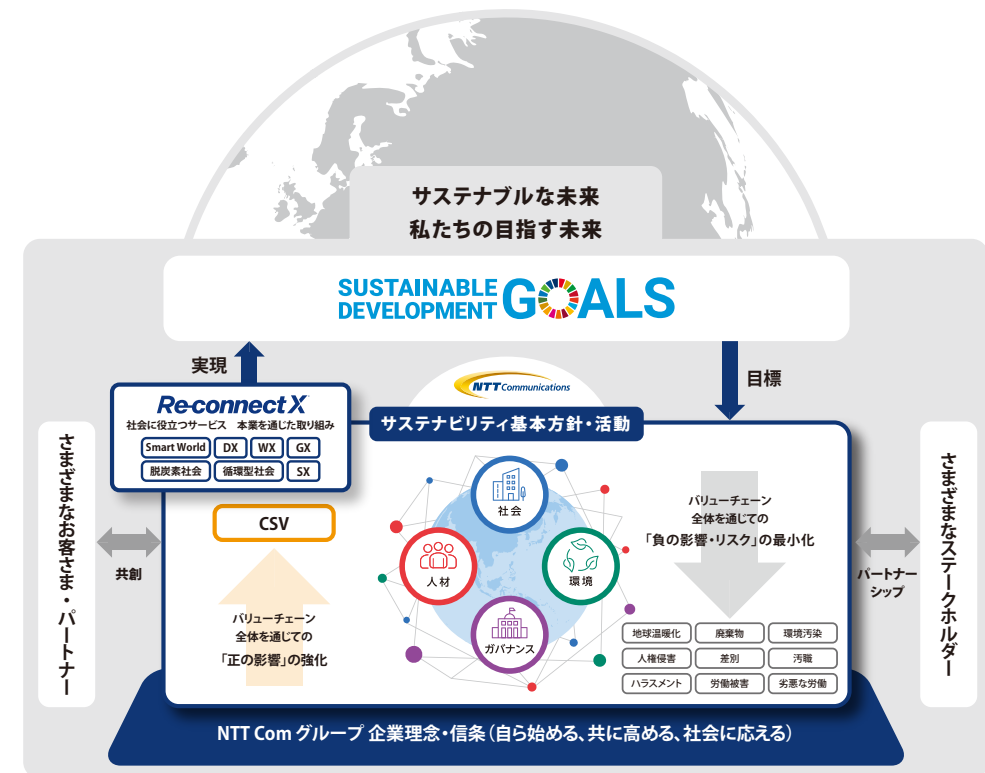
この基本方針は、私たちの「企業理念」と「信条」のもと、“Your Value Partner”として、事業ビジョン「Re-connect X」の推進などを通じて、人と世界の無限の可能性を拓きつつ、持続的に「社会に答え」、「サステナブルな未来の実現」を目指すものです。「社会」「環境」「人材」「ガバナンス」の4領域を重点領域としており、各領域ごとに「目指す未来」を掲げるとともに、その実現に向けて、「社会と未来をつなぐDXの推進」や「限界を打破するイノベーションの推進」「脱炭素社会の推進」「循環型社会の推進」「人権の尊重」「ダイバーシティ&インクルージョンの推進」「バリューチェーン・パートナーシップの充実」「コンプライアンス・リスクマネジメントの徹底」などの12の重点活動項目、関連する主要推進事項や、2030年カーボンニュートラル (Scope1,2) の実現などの目標、各種KPIを定めています。

私たちは、お客さま・パートナーをはじめさまざまなステークホルダーの皆さまと共創しつつ、一連の重点活動の推進とPDCAサイクルによるサステナビリティマネジメントなどにより、私たちの事業機会や成長機会の創出とリスクの低減に戦略的かつ的確に取り組み、自らの事業活動がもたらすバリューチェーン全体を通じた社会への「正の影響」の一層の強化と「負の影響・リスク」の最小化を図ります。そして、その積み重ねの中であらゆる壁を乗り越え、社会全体のDX、WX*、GX、SXを推進し、企業価値の持続的向上と「SDGs達成への貢献」、その先の「サステナブルな未来」の創造に取り組んでいきます。

* ワークスタイルトランスフォーメーション

P021 マテリアリティ特定プロセスは、レポート内「重点活動項目(マテリアリティ)の特定・設定および主要推進事項、指標(KPI)・目標の設定プロセス」をご覧ください

P006 サステナビリティ基本方針については、レポート内「私たちが目指す社会」をご覧ください



* サステナビリティ基本方針(2021年5月策定)における重点領域



NTT Communications Corporation Sustainability Report 2023

CONTENTS

トップコミットメント

事業戦略

私たちが目指す社会

特集

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティ

サステナブルな未来を創造する企業グループを目指して

サステナビリティ基本方針と「まだ見ぬコミュニケーションの創造」

— サステナビリティ基本方針のもと、ICT/DXの無限の可能性を追求し、2030年度カーボンニュートラルの実現、SDGs達成への貢献、2040年度ネットゼロ、そして、その先の持続可能で夢のある、Well-beingな未来の実現に取り組みます

サステナビリティマネジメント



社会



環境



人材

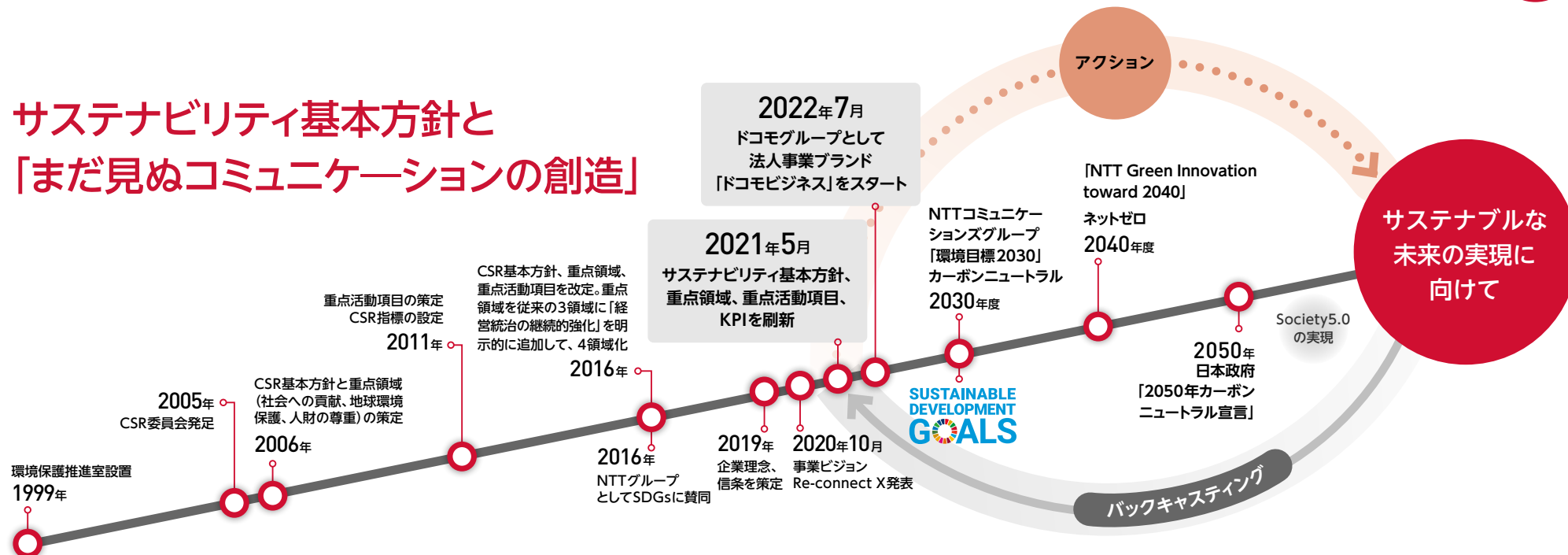


ガバナンス

第三者保証

企業情報

サステナビリティ基本方針と「まだ見ぬコミュニケーションの創造」



私たちが取り組む「まだ見ぬコミュニケーションの創造」とは、「今日と未来の懸け橋として、あらゆる情報があらゆる垣根を越え、最適なかたちで社会をめぐり、より活用され、人と世界の可能性、そして、想像を超える未来を切り拓き、未知なる豊かさを社会や世界に届けてゆく、そのようなコミュニケーションの創造に向け、コミュニケーションの無限の可能性に挑み続けること」です。

これは、私たちNTTコミュニケーションズグループの使命であり、存在意義であり、「企業理念」の中核をなすものです。NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティおよびその基本方針は、このような取り組みと基本姿勢を「信条」の3項目とともにその骨格に据えたものとなっています。また、右記の「Corporate Message」、「Tagline」に込めた私たちの意志を反映したものとなっています。

私たちは、NTTドコモ、NTTコムウェアとの組織再編により広がる、さらなる「コミュニケーションの無限の可能性」に挑み続け、想像を超える豊かな、そしてサステナブルな未来を切り拓いていきます。

Corporate Message

今日と未来の間に。

私たちは、今日と未来の間を常に媒介し、「今日」も世の中を支えながら、「未来」を創り続ける

Tagline

Go the Distance.

※ 距離を超える・最後までやり抜く意

まだ見ぬコミュニケーションの創造を通じて、距離を超えた先にある価値を創り出す、という意味を込めています。

加えて、「最後までやり抜く」の意味から、我々が大切にしてきた誠実さをもって、社会や顧客の期待を超えて、信条を貫き、企業理念を実現する決意を表現しています。

NTTグループの一員としてSDGsに賛同



2016年度、NTTグループは国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」に賛同を表明しました。これを受け、私たちも2016年度よりNTTグループの一員としてSDGsに貢献する取り組みを推進しています。サステナビリティ研修などを行い、社内全体でSDGsの理解浸透を深め、SDGsの目標に紐づいたサステナビリティ重点活動項目などの事業活動を通じて、SDGsの目標達成に貢献していきます。





CONTENTS

トップコミットメント

事業戦略

私たちが目指す社会

特集

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティ

サステナブルな未来を創造する企業グループを目指して

サステナビリティ基本方針と「まだ見ぬコミュニケーションの創造」
 — サステナビリティ基本方針のもと、ICT／DXの無限の可能性を追求し、2030年度カーボンニュートラルの実現、SDGs達成への貢献、2040年度ネットゼロ、そして、その先の持続可能で夢のある、Well-beingな未来の実現に取り組みます

サステナビリティマネジメント



社会



環境



人材



ガバナンス

第三者保証

企業情報



常務執行役員 安藤 友裕

深刻化する気候変動問題をはじめとするSDGs／ESGなどに示された、地球規模での課題やリスクへの対応は、持続可能な社会を次の世代へ、そして、その先の未来につないでいく上で、今日、一層喫緊となっています。NTTコミュニケーションズグループでは、「企業理念」「信条」のもと「事業ビジョン」の推進を通じて、こうした状況に対応し、未来をひらくべく、「サステナビリティ基本方針」を策定し、「環境」(E)「社会」(S)「ガバナンス」(G)および「人材」の4つの重点領域ごとに、「目指す未来」を掲げ、一連の重点活動項目／KPIの達成に取り組んでいます。そして、幅広い協働・共創をベースに、また、PDCAサイクルにもとづく確かなマネジメントとガバナンスのもと、自らの事業活動がもたらす、バリューチェーン全体を通じた社会への「正の効果の一層の発揮」と「負の影響の最小化」を進め、その積み重ねにより、“Your Value Partner”としての企業価値の持続的な向上を図りつつ、人と世界の可能性をひらき、「社会全体のDX、GX、WX、SX」の推進、「SDGs達成」への貢献、そして、その先の、「サステナブルな未来」の創造に向けて取り組んでいます。また、私たちのサステナビリティ基本方針は、全員参加型で作上げた「企業理念」「信条」のもと、目指す未来に向けて、私たち一人ひとりが、「自ら始め」「共に高め」、事業ビジョンや日々の業務・事業活動などを通じて、「社会に役立て」自分らしく活躍していくことを、その取り組みのベース

サステナビリティ基本方針のもと、ICT／DXの無限の可能性を追求し、2030年度カーボンニュートラル^{*1}の実現、SDGs達成への貢献、2040年ネットゼロ^{*2}、そして、その先の持続可能で夢のある、Well-beingな未来の実現に取り組みます

に置いており、こうした点を大切に推進しています。

2023年は、その一環として、これらの取り組みの基礎となる人的基盤の充実に向けて、社員の自律的なキャリア形成と成長に資する機会や環境の一層の充実を進めるとともに、中長期的な人材戦略の充実を図る人事戦略委員会を新たに設置し、また、社員エンゲージメント率を含むサステナビリティ評価の報酬連動制の適用対象を全管理職に拡充しました。喫緊の課題となっている気候変動関連では、私たちのエネルギー総使用量(Scope1,2)の95%以上を占める電力の再生可能エネルギー使用率を約5割(48.6%)に引き上げるとともに、クラウドサービスの再生可能エネルギー使用率100%(Scope2)を実現しました。また、Scope3を含めた2040年ネットゼロ実現に向けた施策の推進や次世代社会を支える生成AIなどの進展に必要な高発熱対応型かつゼロカーボンの「グリーン&超省エネルギーDC」の構築に向けた取り組み、新「生物多様性枠組」(2022年12月採択)に沿ったネイチャーポジティブに寄与するICT／DXサービス・ソリューションの共創、世界的に懸念が高まっている経済安全保障面を含む地政学的リスクを踏まえた、サプライチェーンのレジリエンス強化や海外子会社のガバナンス強化などを進めています。

私たちが先端技術を駆使して提供する「Smart World」「Smart Data Platform for X」などのDXソリューション／プラットフォームや、5G・IoT、そして、ゼロトラス

トでレジリエントかつワンストップな次世代の「移動固定・閉開域網融合型」の統合ICTサービスなどは、気候変動、大規模災害、少子高齢化や情報・サイバー空間上の脅威への対応など現代社会が抱える複雑かつ多様な課題の解決、そして、その先の未来社会を支える価値創造の切り札にもなり得るものです。SDGs／ESGを起点に、あらゆる分野、世界がよりよい未来に向けて結束していかなければならない今、こうした事業活動を通じてあらゆる分野・世界をつなぎ社会に貢献できる喜びは社員にとっても大きな価値を持つものとなっています。

NTTコミュニケーションズグループは、中長期的リスクと機会を的確に把握・対応しつつ、ドコモビジネスブランドのもと、これからも次世代、そして目指す未来社会を支えるサービス・基盤を開発・提供し続け、一層複雑化・多様化する社会課題を解決し、「あなたと世界を変え」、未来をひらくべく、サステナビリティ基本方針のもと、グループ一丸となって取り組んでまいります。そして、社会の期待・要望に応えるべく、ICT企業ならではの「事業活動を通じたCSV／CSR」を実践し、SDGs／ESGの推進、イノベティブで創造的、強靱で、安心・安全、グリーンで自然と共生し、活力ある地域社会で構成される、誰もが尊重され、互いに高め合い、社会に応じて自分らしく活躍できる、持続可能で夢のあるWell-beingな未来の実現に、さまざまなステークホルダーの皆さまと共創・価値創発しつつ、積極的に取り組んでまいります。

*1 対象はGHGプロトコル:Scope1(自らの温室効果ガスの直接排出)およびScope2(他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出)
 *2 2023年5月、NTTグループ新「中期経営戦略」にもとづくScope3(Scope1、Scope2以外の間接排出)を含む取り組み



サステナビリティマネジメント

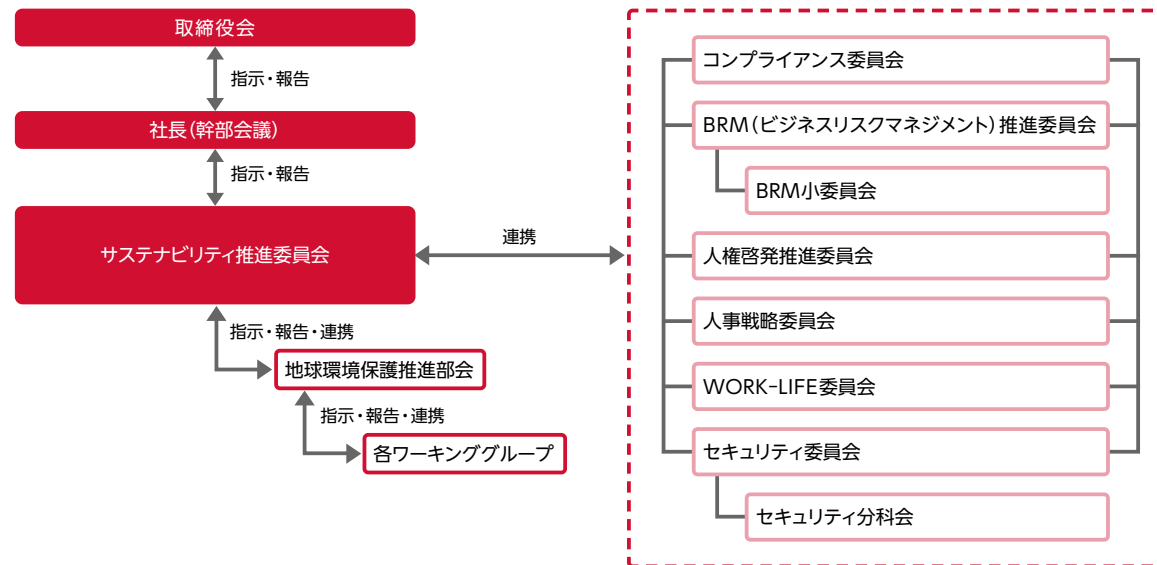
サステナビリティ推進体制とガバナンス、リスク管理、戦略、指標・目標

サステナビリティ推進体制

私たちは、ESGを巡る顕在／潜在的な社会課題に対して対応策を検討し、サステナビリティ活動を総合的・戦略的かつ的確に推進・マネジメントしていくための会議体として「サステナビリティ推進委員会」を設置しています。委員会はCSR担当役員である常務執行役員を責任者と定め、各組織長（執行役員など）、各グループ

会社社長を構成メンバーとし、委員会内部には「地球環境保護推進部会」を設けています。また、サステナビリティ活動を推進するうえで対応すべき重要テーマについては、個別に委員会などが設置されており、これらの委員会と連携しつつ適切な対応を行うべく、グループ横断で情報共有・連携し、グループ全体でサステナビリティを推進する体制を構築しています。

【サステナビリティ推進体制図】



ガバナンス

このようなサステナビリティ推進体制のもと、各委員会などで報告・検討された事項については、取締役会へと共有されており、審議を経た後、取締役会では、課題の対応や経営戦略、事業計画の意思決定をするうえで最終決定を行っています。取締役会では、これらの取り組みとともに、監査役会からの提言などを総合し、サステナビリティ評価を役員報酬と連動させつつ、サステナビリティ活動の戦略的かつ適確な推進に向けて、必要なガバナンスを実施しています。

サステナビリティ推進委員会メンバー・事務局

- 委員長： CSR担当役員(常務執行役員)
- 委員： 各組織長(執行役員など)、各NTTComグループ社長
- 事務局： サステナビリティ推進室*

* サステナビリティ推進室ではNTTコミュニケーションズグループの環境関係の取り組みも推進しており、地球環境保護推進部会の事務局のほか、TCFD・TNFDにもとづくリスク・機会の把握・検討など、ドコモグループ全体としての活動の推進および各社との連携を含め担っています

CONTENTS

トップコミットメント

事業戦略

私たちが目指す社会

特集

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの
サステナビリティ

サステナブルな未来を創造する
企業グループを目指して

サステナビリティ基本方針と
「まだ見ぬコミュニケーションの創造」

サステナビリティマネジメント

- サステナビリティ推進体制とガバナンス、リスク管理、戦略、指標・目標
- 指標・目標と活動の成果
- NTTコミュニケーションズグループのバリューチェーンを通じたサステナブルな未来実現に向けた取り組み
- NTTグループとの関係／外部との関係



社会



環境



人材



ガバナンス

第三者保証

企業情報



リスク管理

私たちは、事業の内外に潜在するリスクの発生を予想・予防し、リスクが顕在化した場合でも損失を最小限に抑え、持続的な成長に資することを目的として、リスクマネジメントの基本的事項を定めた「リスクマネジメント規程」を制定し、重点活動項目の主幹組織などにおいて必要な取り組みを行っています。また、事業運営に影響をおよぼすような大規模なリスクなどに適切に対応するための体制および仕組みとして、代表取締役副社長を委員長とする「ビジネスリスクマネジメント推進委員会」を設置し、リスクマネジメントのPDCAサイクルを構築・運用しています。

サステナビリティに関連する機会についても、関係する重点活動項目の主管組織などにおいて、所管分野における中長期を含めた取り巻く内外動向や事業ビジョンなどを踏まえながら、関連する組織などとともに、社会課題の解決やサステナブルな社会実現に資する価値創造に向けた事業機会に対応するCSVの推進などを内容とする主要推進事項やその推進状況の評価の指標 (KPI) の検討を進め、PDCAサイクルのもと、取り組みを推進しています。

そして、このような各主管組織の主体的な社会課題・リスク・事業機会への取り組みおよび管理の実施をベースとしつつ、NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティ活動を総合的かつ適確に推進するため、私たちは上記のような推進体制、ガバナンス

のもと、サステナビリティ推進委員会を通じて、毎年度、ESGをめぐる国内外の最新動向や中期経営戦略・経営方針などを踏まえつつ、各主要推進事項と評価指標 (KPI)・目標を総合調整のうえ、最終設定するとともに、その達成度合いを検証・評価・総括し、次年度の主要推進事項、指標の策定に反映しています。これらのプロセスは、毎年度の主要推進事項、指標の見直しはもとより、サステナビリティ基本方針および重点課題の再検討なども含めて、サステナビリティ推進委員会を通じて実施されます。

なお、サステナビリティ推進委員会における重点活動項目 (マテリアリティ) の特定および特定した重点活動項目ごとの主要推進事項とその評価指標 (KPI)・目標の設定に向けたプロセスの詳細は、次ページの「重点活動項目 (マテリアリティ) の特定・設定および主要推進事項、指標 (KPI)・目標の設定プロセス」の通りです。

また、現在の重点活動項目は次頁の「特定したサステナビリティ重点項目」の通り、社会、環境、人材、ガバナンスの重点4領域を構成する12の項目となっています。

戦略

NTTコミュニケーションズグループは、4つの重点領域 (社会・環境・人材・ガバナンス) における顕在／潜在的な社会課題やそれらに伴うリスクと事業機会に対応するための取り組みとして、重点活動項目ごとに、主要推進事項を定めています。私たちは、サステナビリティ

基本方針のもと、これらの主要推進事項について、①バリューチェーンパートナーシップ、ステークホルダー・エンゲージメントおよび人的資本の充実を図りつつ、②お客さま、パートナーの皆さまをはじめさまざまなステークホルダーの皆さまとの幅広い協働・共創をベースに取り組み、③自らの事業活動がもたらす、バリューチェーン全体を通じた社会への「正の効果の一層の発揮」と「負の影響やリスクの最小化」を進め、その積み重ねにより、企業価値の持続的な向上を図りつつ、サステナブルな未来の実現に向けた各種取り組みを戦略的かつ的確に推進していきます。

なお、2023年度の主要推進事項は総計27項目となっています。

P022 2023年度の主要推進事項の詳細はレポート内「指標・目標と活動の成果」中の表をご覧ください

P032 バリューチェーン全体を通じた取り組みについてはレポート内「NTTコミュニケーションズグループのバリューチェーンを通じたサステナブルな未来実現に向けた取り組み」をご覧ください

私たちは、以上のような戦略 (主要推進事項とその取り組み方) のもと活動を推進しつつ、その活動状況やKPIにもとづく評価、それらに関連するリスク・機会、ESGを巡る最新の国内外の動向や他社の取り組み事例、外部評価などを各主要推進事項の主管組織などとタイムリーに把握するとともに全社的に共有し、PDCAサイクルを回しながら、今後も、サステナビリティを巡る総合的なマネジメントを的確に展開していきます。



NTT Communications Corporation Sustainability Report 2023

CONTENTS

トップコミットメント

事業戦略

私たちが目指す社会

特集

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティ

サステナブルな未来を創造する企業グループを目指して

サステナビリティ基本方針と「まだ見ぬコミュニケーションの創造」

サステナビリティマネジメント

- サステナビリティ推進体制とガバナンス、リスク管理、戦略、指標・目標
- 指標・目標と活動の成果
- NTTコミュニケーションズグループのバリューチェーンを通じたサステナブルな未来実現に向けた取り組み
- NTTグループとの関係／外部との関係



社会



環境



人材

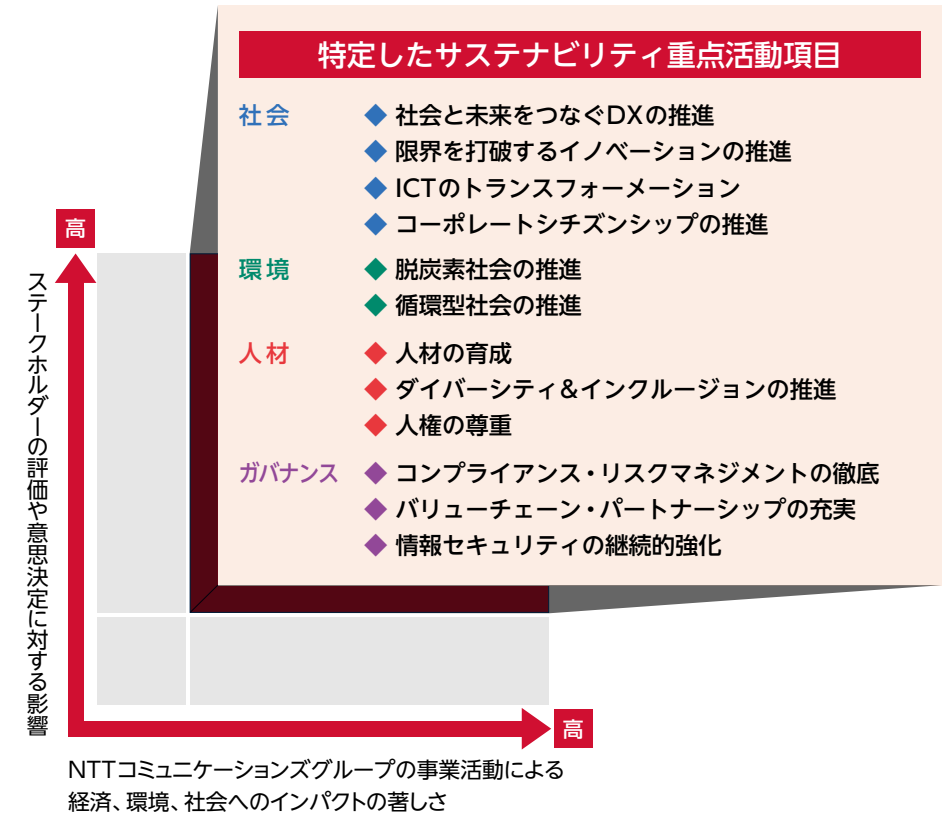


ガバナンス

第三者保証

企業情報

重点活動項目(マテリアリティ)の特定・設定および主要推進事項、指標(KPI)・目標の設定プロセス





CONTENTS

トップコミットメント

事業戦略

私たちが目指す社会

特集

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティ

サステナブルな未来を創造する企業グループを目指して

サステナビリティ基本方針と「まだ見ぬコミュニケーションの創造」

サステナビリティマネジメント

- サステナビリティ推進体制とガバナンス、リスク管理、戦略、指標・目標
- 指標・目標と活動の成果
- NTTコミュニケーションズグループのバリューチェーンを通じたサステナブルな未来実現に向けた取り組み
- NTTグループとの関係/外部との関係



社会



環境



人材



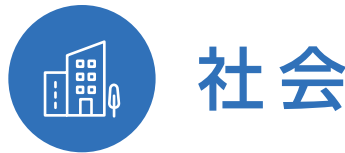
ガバナンス

第三者保証

企業情報

指標・目標と活動の成果

サステナビリティ基本方針の重点領域(社会、環境、人材、ガバナンス)、重点活動項目ごとの2022年度の主要推進事項、評価指標(KPI)・目標と活動の成果(振り返り、評価と今後に向けて)、そして、それらを受けた2023年度の主要推進事項と指標(KPI)・目標は、次の通りです。



目指す未来

イノベティブで活力にみち、強靱で安心・安全、そして価値創発で持続的に発展するよりよい未来

2022年度

主要推進事項	指標(KPI)	振り返り	評価	今後に向けて
--------	---------	------	----	--------

重点活動項目 | 社会と未来をつなぐDXの推進

<p>社会・産業DXの推進</p> <p>定性 BBX戦略®に基づくSmart World推進</p> <p>定量 提供サービス：8件</p>	<p>定性 BBX関連対外発表44件</p> <p>定量 提供サービス・メニュー：8件</p> <p>SDPFクラウドサービス/サーバー CO₂排出予測・可視化機能や、上司の1on1スキル向上をAIにより支援する「COTOHA 1on1 Assistant」など、お客さまのDX推進をサポートするさまざまなサービスの提供を開始</p>	<p>○</p> <p>●ドコモグループシナジーを活かしたBBX戦略により、さらなるSmart Worldを推進</p>
<p>ワーク/ライフスタイルDXの推進</p>	<p>定性 グローバルDXソリューションの展開</p> <p>タイにカスタムエクスペリエンスセンター(CEC)を設立しビジネス活動を展開</p>	<p>○</p> <p>タイCECでの活動に加え、NTT Com Chinaの新セキュリティオペレーションセンターなどを通じ、グローバルソリューションの展開を継続</p>

※ 共創によるB2B2X(B2B2B/B2B2Cなど)事業の推進



2023年度

主要推進事項	指標(KPI)
--------	---------

<p>社会・産業DXの推進</p> <p>定性 BBX戦略にもとづくSmart World推進</p> <p>定性 新 DX推進による持続可能な地域社会の実現の推進</p> <p>定量 提供サービス：5件</p>	<p>定性 グローバルDXソリューションの展開</p>
---	--

自己評価による達成レベル ○：達成 △：一部達成 ×：未達成



CONTENTS

トップコミットメント

事業戦略

私たちが目指す社会

特集

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティ

サステナブルな未来を創造する企業グループを目指して

サステナビリティ基本方針と「まだ見ぬコミュニケーションの創造」

サステナビリティマネジメント

- サステナビリティ推進体制とガバナンス、リスク管理、戦略、指標・目標
- 指標・目標と活動の成果
- NTTコミュニケーションズグループのバリューチェーンを通じたサステナブルな未来実現に向けた取り組み
- NTTグループとの関係／外部との関係



社会



環境



人材



ガバナンス

第三者保証

企業情報

2022年度

主要推進事項	指標 (KPI)	振り返り	評価	今後に向けて
--------	----------	------	----	--------

重点活動項目 | 限界を打破するイノベーションの推進

創造的イノベーションの創出	<p>定性</p> <p>創造的でイノベーティブな SmartX の推進</p>	<p>xTech / 新たな顧客体験による新規事業開発 / 実証を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 遠隔操作ロボット事業 (テレプレゼンス)、宇宙関連事業 (SpaseTech)、風況データ事業など、中長期を見据えた新規事業について価値創造 / 実証を実施中 ● 制御システムのセキュリティを可視化する [OsecT] を開発。2022年4月からWideAngle プロフェッショナルサービス [OsecT] として商用サービス提供開始。B2B2Xでのサービス展開に向け、複数の事業者と技術・ビジネスPoCを実施中 	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 新規事業の開発推進を継続実施 ● [OsecT] について、国内中小製造業の工場環境での利用に適合する監視機能を提供 (2023年7月提供開始済)
---------------	---	--	---	--

イノベーション・マネジメントの推進	<p>定性</p> <p>社内外と連携した創造的なイノベーションの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● [ExTorch Open Innovation Program] で、スタートアップ企業と社内各部をつなぎ、共創による新事業創出に向けた活動を実施中 ● [AI プラント運転支援ソリューション] の商用提供にあたり、AI 開発支援ツール [Node-AI] や環境変化に対応した AI を最適化する仕組み [JIT アルゴリズム] などを提供し、B2B2X モデルによるデータ活用ビジネスの創出を推進 	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 2023年度より、新規事業創出コンテストの名称を「docomo STARTUP」とし、ドコモグループ一体となって進める ● B2B2X モデルによるデータ活用ビジネスの創出推進の継続
-------------------	--	--	---	--

重点活動項目 | ICT のトランスフォーメーション

自然災害に強く、高信頼で、安心・安全なネットワーク基盤の充実	<p>定量</p> <p>安定サービス提供率: 99.99%</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 音声サービス ● 法人向けネットワークサービス ● クラウドサービス 	<ul style="list-style-type: none"> ● 安定サービス提供率 99.99% 達成 (3 サービスの平均値) 	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 高信頼で安心・安全なサービスの提供を実現するべく、サービスの品質・体制を強化
--------------------------------	--	--	---	--

2023年度

主要推進事項	指標 (KPI)
--------	----------

創造的イノベーションの創出	<p>定性</p> <p>創造的でイノベーティブな SmartX の推進</p>
---------------	---

イノベーション・マネジメントの推進	<p>定性</p> <p>社内外と連携した創造的なイノベーションの推進</p>
-------------------	--

自然災害に強く、高信頼で、安心・安全なネットワークサービスの充実	<p>定量</p> <p>安定サービス提供率: 99.99%</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 音声サービス ● 法人向けネットワークサービス ● クラウドサービス
----------------------------------	--

自己評価による達成レベル ○: 達成 △: 一部達成 ×: 未達成



CONTENTS

トップコミットメント

事業戦略

私たちが目指す社会

特集

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティ

サステナブルな未来を創造する企業グループを目指して

サステナビリティ基本方針と「まだ見ぬコミュニケーションの創造」

サステナビリティマネジメント

- サステナビリティ推進体制とガバナンス、リスク管理、戦略、指標・目標
- 指標・目標と活動の成果
- NTTコミュニケーションズグループのバリューチェーンを通じたサステナブルな未来実現に向けた取り組み
- NTTグループとの関係/外部との関係



社会



環境



人材



ガバナンス

第三者保証

企業情報

2022年度

主要推進事項	指標 (KPI)	振り返り	評価	今後に向けて
先進的で強固な情報・サイバーセキュリティの提供	定量 セキュリティサービスの開発/メニューの追加: 3件	<ul style="list-style-type: none"> ● マネージドCSPM ● あんしんモバイルセキュリティ for ビジネス ● マネージドSOAR など7件 	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 中小企業向けメニューも視野に入れて展開する ● X Managed Platformサービスも今後重点取り組み予定
顧客の安心・安全なトランスフォーメーションを支援するマネージドサービスの提供	定量 安心・安全なICT社会の持続的発展を支援するマネージドサービスの開発/新メニューの提供: 2件	新メニューの提供: 2件 マネージドサービスに必須な基本機能、オプション機能を実案件にもとづく顧客ニーズを取り入れメニュー化 <ul style="list-style-type: none"> ● クラウド(AWS/ECL2.0)メニュー追加 ● グローバルデリバリーメニュー追加 	○	<ul style="list-style-type: none"> ● データ蓄積、分析や簡易セキュリティ診断、トラフィック予知・検知など、キャリアならではの新機能開発の推進
先進的で柔軟なネットワークサービスの提供	定量 提供サービス: 2件	提供サービス: 2件 <ul style="list-style-type: none"> ● Active Multi-access SIM* ● IoT Connect Gateway機能強化 	○	付加価値機能を拡張し、お客さまのIoTシステム/サービスの発展の推進を目指す

重点活動項目 | コーポレートシチズンシップの推進

持続可能な未来に資する社会貢献活動の推進	定量 地域社会貢献活動への参加回数(対前年度比増)	10件(昨年度: 10件) 2022年度よりプロボノ活動によるNPO支援も開始	○	回数のみならず、より多くの社員が気軽に社会貢献・ボランティアに参加できる環境を整え、参加機会の拡大を目指す
----------------------	------------------------------	--	---	---

* NTTコミュニケーションズ独自技術(特許出願中)により、1枚のSIMだけで自律的に通信障害などを検知して予備のキャリアに切り替え可能なIoT向けSIMを新規開発

2023年度

主要推進事項	指標 (KPI)
先進的で強固な情報・サイバーセキュリティの提供	定量 先進的で強固なセキュリティサービスの開発/メニューの追加: 3件
顧客の安心・安全なトランスフォーメーションを支援するマネージドサービスの提供	定量 安心・安全なICT社会の持続的発展を支援するマネージドサービスの開発/新メニューの提供: 2件
先進的で柔軟なネットワークサービスの提供	定量 強化 提供サービス: 4件
持続可能な未来に資する社会貢献活動の推進	定量 新 地域社会貢献活動への参加機会の拡大

自己評価による達成レベル ○: 達成 △: 一部達成 ×: 未達成



CONTENTS

トップコミットメント

事業戦略

私たちが目指す社会

特集

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティ

サステナブルな未来を創造する企業グループを目指して

サステナビリティ基本方針と「まだ見ぬコミュニケーションの創造」

サステナビリティマネジメント

- サステナビリティ推進体制とガバナンス、リスク管理、戦略、指標・目標
- 指標・目標と活動の成果
- NTTコミュニケーションズグループのバリューチェーンを通じたサステナブルな未来実現に向けた取り組み
- NTTグループとの関係／外部との関係



社会



環境



人材



ガバナンス

第三者保証

企業情報



環境

目指す未来

カーボンニュートラルで、資源が循環し、生物多様性が保全されて自然と共生する、グリーンな未来

私たちは、以下の関連主要推進事項により、「2030年度カーボンニュートラル(NTTコミュニケーションズグループが排出するGHG: Scope1,2の実質ゼロ化)」を目指します。



2022年度				
主要推進事項	指標 (KPI)	振り返り	評価	今後に向けて
重点活動項目 脱炭素社会の推進				
グリーン電力の推進	定量 自社における再生可能エネルギー(非化石証書活用による実質再エネを含む)利用率: 2030年度50%以上	49% (事業活動に伴うGHG排出量のうちGHGプロトコル: Scope2の由来となる電力)	○	●再生可能エネルギーの計画的な導入を進めるとともに、最新の省電力技術の積極的な導入やインターナルカーボンプライシング導入などのGHG排出削減に寄与する施策を確実に実施 ●社用車によるGHG排出削減に向け、EV化の推進に加え、所有する車両の台数や利用形態の見直しを積極的に推進
電力削減施策の推進	定量 GHG排出量の削減: 2030年度に2018年度比▲50%	▲46% (2018年度比)	○	
EV(電気自動車)の導入	定量 EV(電気自動車)導入率: 2024年度50%、2030年度100%	35%	○	
GHG削減に貢献するサービス等の提供	定量 社会のGHG排出量の削減貢献量: 2030年度に自社排出量の10倍以上	17.1倍	○	
エネルギー効率向上の推進	定量 通信事業の電力効率: 2030年度に2013年度比10倍以上	4.3倍	○	

重点活動項目 循環型社会の推進				
3R(削減、再利用、再資源化)の徹底	定量 強化 廃棄物のリサイクル率: 2022年度98.2%以上、2030年度99%以上	98.1%	△	リサイクル率向上に向けた処分対象・処分方法の見直し
プラスチックの循環利用の推進				

P050 2030年度カーボンニュートラル(Scope1,2)の実現に向けた考え方および2040年ネットゼロ(Scope1,2,3)については、レポート内「環境目標2030」パートをご覧ください

2023年度	
主要推進事項	指標 (KPI)
GHG排出量の削減	定量 カーボンニュートラル(2030年度) ※GHGプロトコル: Scope1,2を対象 定量 2023年度GHG排出量(Scope1,2): 11.7万t-CO ₂ e
EV(電気自動車)の導入	定量 EV(電気自動車)導入率: 2025年度50%※、2030年度100% ※2022年7月に実施したNTTドコモグループ(当時)との組織再編に際して、新たな社用車を受け入れたのに伴い、中間目標達成年度を見直し
GHG排出量削減に貢献するサービス等の提供	定量 新 2023年度のGHG排出量削減に貢献するサービスの共創等の推進: 2件
エネルギー効率向上の推進	定量 通信事業の電力効率: 2030年度に2013年度比10倍以上

3R(削減、再利用、再資源化)の徹底	定量 廃棄物のリサイクル率: 2023年度98.2%以上、2030年度99%以上
プラスチックの循環利用の推進	

自己評価による達成レベル ○: 達成 △: 一部達成 ×: 未達成



人材

目指す未来 多様性に富み、誰もが尊重され共に高め合い、社会に応じて自分らしく活躍できる未来

2022年度				
主要推進事項	指標 (KPI)	振り返り	評価	今後に向けて

重点活動項目 | 人材の育成

社員個々の自律的な学習行動や、社員同士のオープンな学び合いの促進に資する施策を強化	定量 一人当たり研修費用： 22.8万円/年	20.5万円	△	<ul style="list-style-type: none"> スキルアップ支援スキームをドコモグループ共通施策と法人セグメント特化施策に分け、法人セグメントで必要な研修などは継続提供し、「DX人材100施策」や支社支店向け勉強会施策などを強化 人事・人材育成などの制度見直しや専門性を軸としたスキルアップや資格取得の挑戦を後押しする支援施策をドコモグループ共通施策として統合・強化

重点活動項目 | ダイバーシティ&インクルージョンの推進

多様な人材の雇用・育成・登用と機会均等の推進	定量 女性管理者比率：2025年 15%	女性の新任管理者登用率：30.2%	○	<ul style="list-style-type: none"> ドコモグループ連携によるさらなる女性活躍推進活動の実施 メンタリングによるキャリア支援 社内外ダイバー交流（異業種交流会など） 若手社員の意識醸成
	定量 女性の新任管理者登用率：30%			
	定量 男性育休取得率：100%	男性育休取得率：132.8% ※分母：当該年度にパートナーが出産した人数、分子：育児休職+6歳以下の子供がいる社員のLP休暇	○	



2023年度	
主要推進事項	指標 (KPI)

社員がキャリア実現のために自律的に学び成長できる施策の推進(社員と事業が共に成長する成長循環)	定量 一人当たり研修費用： 22万円/年
	定量 新 DX人材：2030年度末100%

多様な人材の雇用・育成・登用と機会均等の推進	定量 女性管理者比率：2025年 15%
	定量 女性の新任管理者登用率：30%
	定量 男性育休取得率：100%

自己評価による達成レベル ○：達成 △：一部達成 ×：未達成



CONTENTS

トップコミットメント

事業戦略

私たちが目指す社会

特集

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティ

サステナブルな未来を創造する企業グループを目指して

サステナビリティ基本方針と「まだ見ぬコミュニケーションの創造」

サステナビリティマネジメント

- サステナビリティ推進体制とガバナンス、リスク管理、戦略、指標・目標
- 指標・目標と活動の成果
- NTTコミュニケーションズグループのバリューチェーンを通じたサステナブルな未来実現に向けた取り組み
- NTTグループとの関係／外部との関係



社会



環境



人材



ガバナンス

第三者保証

企業情報

2022年度					
主要推進事項	指標 (KPI)	振り返り	評価	今後に向けて	
多様な人材の雇用・育成・登用と機会均等の推進	定量 障がい者雇用率：2.3%	2.38% ※2022年6月1日時点	○	新たな法定雇用率(2024年度より2.5%)に向け、ドコモグループ一体で雇用促進/定着支援の実施	
	—	—	—		
ワークライフバランスの推進	定量 エンゲージメントスコア (エンゲージメントカテゴリのポジティブ率) 対前年度比増	NTTコミュニケーションズグループ：61% NTTコミュニケーションズ単体：63%	△	優先的に取り組む課題「戦略の浸透」「カルチャー・風土」「ダイバー/CSR」「キャリア」「報酬・業績管理」に対し、HRM戦略にもとづきキャリア自律、組織開発の推進などに取り組む	
	定量 電子印影利用率：80% 電子契約率：50%	● 共通業務プロセスの電子化：87.5% ● 電子印影：55% ● 電子契約：22% ● 電子化意識の定着化	△		新しい働き方を支える仕組みづくり(紙を介するアナログなプロセスの電子化)において、一定以上の役割は完遂
	定量 リモートワーク実施率：70%	70%超	○		
労働安全衛生・健康管理の徹底	定量 特定保健指導対象者率： 2022年度18.8%、2023年度14.5%	20.5%	×	社員一人ひとりが健康であり続けられるようフィジカルヘルス・メンタルヘルスそれぞれで目標値を定めながら、各種取り組みを実行し、労使間で相互協力しながらウェルネス推進委員会で議論する	
	定量 特定保健指導完了率： 2022年度目標70%、2023年度目標75%	31.7%	×		

2023年度	
主要推進事項	指標 (KPI)
多様な人材の雇用・育成・登用と機会均等の推進	定量 障がい者雇用率：2.3%
	定量 新 外部人材の採用：30%
ワークライフバランスの推進	定量 エンゲージメントスコア対前年度改善 (中期目標：65%)
	—
労働安全衛生・健康管理の徹底	定量 リモートワーク実施率 リモートスタンダード組織：60% オフィスベース組織：40% ※ 自宅以外(サテライトオフィスなど)からの勤務も対象予定
	定量 新 業務災害ゼロ

自己評価による達成レベル ○：達成 △：一部達成 ×：未達成

CONTENTS

トップコミットメント

事業戦略

私たちが目指す社会

特集

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティ

サステナブルな未来を創造する企業グループを目指して

サステナビリティ基本方針と「まだ見ぬコミュニケーションの創造」

サステナビリティマネジメント

- サステナビリティ推進体制とガバナンス、リスク管理、戦略、指標・目標
- 指標・目標と活動の成果
- NTTコミュニケーションズグループのバリューチェーンを通じたサステナブルな未来実現に向けた取り組み
- NTTグループとの関係／外部との関係



社会



環境



人材



ガバナンス

第三者保証

企業情報



2022年度

主要推進事項	指標 (KPI)	振り返り	評価	今後に向けて
重点活動項目 人権の尊重	定量 人権研修受講率：100%	NTTコミュニケーションズグループ：96.1% NTTコミュニケーションズ単体：97.1%	△	人権研修の強化と社内向け人権デューデリジェンスの具体化を中心に、人権関連の各種対面型イベント・研修への参加を拡充する
	定量 人権デューデリジェンスの実施：1回以上/年	1回実施 カントリーリスクの高いエリアでのプロジェクト案件について、社外機関によるアセスメントを実施	○	
	定量 人権に関する違反件数：0件	1件	△	

2023年度

主要推進事項	指標 (KPI)
重点活動項目 人権の尊重	定量 人権研修受講率：100%
	定量 人権デューデリジェンスの実施：1回以上/年
	定量 人権に関する違反件数：0件

自己評価による達成レベル ○：達成 △：一部達成 ×：未達成

- サステナビリティ推進体制とガバナンス、リスク管理、戦略、指標・目標
- 指標・目標と活動の成果
- NTTコミュニケーションズグループのバリューチェーンを通じたサステナブルな未来実現に向けた取り組み
- NTTグループとの関係/外部との関係



社会



環境



人材



ガバナンス



ガバナンス

目指す未来

高い倫理観と確固としたガバナンスのもと、常に信頼され、多彩な共創がサステナブルな社会を織りなし、紡ぐ未来

2022年度				
主要推進事項	指標(KPI)	振り返り	評価	今後に向けて
高い倫理観の共有とコンプライアンスの徹底	定量 重大なコンプライアンス違反発生件数：0件	0件	○	Integrityに満たしたコンプライアンス基盤の確立に向け、以下の内容に取り組む
信頼され続ける企業としてのコンプライアンスへの取組の継続的充実	定量 全社コンプライアンス研修受講率：100%	99.1%	△	<ul style="list-style-type: none"> ● 関係法令への適切な対応 ● 企業倫理基盤確立に向けたグループ連携の継続的強化 ● オープンで風通しの良い“企業風土”醸成 ● ハイブリッドワークをベースにした新しい働き方“Integrity”醸成
企業倫理の維持向上を目指す企業風土	定量 職場がオープンな雰囲気であるとする社員の回答率：97%	関連質問の平均工程回答率：95.8%	△	
リスク管理体制の継続的充実	定性 全社リスクマネジメントの推進	<ul style="list-style-type: none"> ● ビジネスリスクマネジメント推進委員会(2回)、小委員会(12回)開催 ● 四半期幹部会議報告(4回) 	○	2023年度の重要リスクとして「地政学的リスク」「情報セキュリティ」「コーポレートガバナンス」を指定して重点的に取り組む

重点活動項目 | コンプライアンス・リスクマネジメントの徹底



2023年度

主要推進事項	指標(KPI)
高い倫理観の共有とコンプライアンスの徹底	定量 重大なコンプライアンス違反発生件数：0件
企業倫理の維持向上を目指す企業風土	定量 職場がオープンな雰囲気であるとする社員の回答率：97%
リスク管理体制の継続的充実	定性 全社リスクマネジメントの推進

自己評価による達成レベル ○：達成 △：一部達成 ×：未達成



CONTENTS

トップコミットメント

事業戦略

私たちが目指す社会

特集

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティ

サステナブルな未来を創造する企業グループを目指して

サステナビリティ基本方針と「まだ見ぬコミュニケーションの創造」

サステナビリティマネジメント

- サステナビリティ推進体制とガバナンス、リスク管理、戦略、指標・目標
- 指標・目標と活動の成果
- NTTコミュニケーションズグループのバリューチェーンを通じたサステナブルな未来実現に向けた取り組み
- NTTグループとの関係／外部との関係



社会



環境



人材



ガバナンス

第三者保証

企業情報

2022年度				
主要推進事項	指標 (KPI)	振り返り	評価	今後に向けて

重点活動項目 | バリューチェーン・パートナーシップの充実

CSR・グリーン調達への徹底に向けたサプライヤーとの協働	定量 SAQ回収率：100%	回収率100% SAQ(セルフリスクアセスメント調査)実施へ変更。サプライヤーと直接対話を実施するスキームを策定しパートナーシップを強化	○	<ul style="list-style-type: none"> ● グローバルスタンダードなサプライヤーマネジメントを目指し、「調達基本方針」「サプライチェーンサステナビリティ推進ガイドライン」の浸透を進め、直接対話や説明会を通して相互理解を深め、サプライヤーと協働して取り組みを進める ● NTTグループとして、2040年度に向けて「NTT Green Innovation toward 2040」のScope3拡大を目指しており、その達成に向け温室効果ガス排出量削減に向けた取引先の理解および取り組みを推進
	定量 高リスク取引先の調達状況確認実施率：100%	いずれも実施率100% <ul style="list-style-type: none"> ● 重要取引先との直接対話を実施しサステナビリティに関する取り組み状況確認：5社実施 	○	
	定量 リスクが認められた取引先に対する是正対応の実施率：100%	<ul style="list-style-type: none"> ● CO₂削減に向けた意見交換会を個別に実施：16社 ● EcoVadis評価開始に伴う主要サプライヤー向け説明会の開催：約120社 ● 半導体不足で影響のあるメーカーと定期的に直接生産継続交渉を実施 	○	
重要なサプライヤーとの直接対話実施率：100%	定量 重要なサプライヤーとの直接対話実施率：100%		○	
	定性 ステークホルダーとの対話や要望への対応	<ul style="list-style-type: none"> ● プロボノ活動を題材とし、コーポレートシチズンシップの推進について有識者ダイアログの実施【3月】 ● SAQなどを通じサステナビリティ全般について顧客との対話の実施 	○	お客様のみならず、すべてのステークホルダーとの社会課題解決に向けた対話の強化

重点活動項目 | 情報セキュリティの継続的強化

セキュリティ・マネジメントの継続的強化	定量 重大なインシデント発生件数：0件	<ul style="list-style-type: none"> ● 重大なインシデント発生件数：0件 ● 不正アクセス対策としてEDRおよびNDRの導入完了 ● セキュリティ委員会を開催(4回)し、セキュリティガバナンスの強化実施 ● 情報セキュリティ調査を、NTT コミュニケーションズ7組織とNTT コミュニケーションズグループ会社2社を対象に実施 	○	セキュリティオペレーションの自動化/効率化/高度化、IT/OT資産管理の一元化によるITガバナンスの向上などに取り組む
	定性 システム監査/情報セキュリティ監査やサイバーセキュリティ対策の実施、マネジメント体制の充実			

2023年度	
主要推進事項	指標 (KPI)

サステナビリティ・グリーン調達への徹底に向けたサプライヤーとの協働	定量 重要なサプライヤーとの直接対話実施率：100%
ステークホルダー・エンゲージメントの充実	定性 ステークホルダーとの対話や要望への対応

セキュリティ・マネジメントの継続的強化	定量 外部からのサイバー攻撃に伴う重大なインシデント発生件数：0件
	定性 システム監査/情報セキュリティ監査やサイバーセキュリティ対策の実施、マネジメント体制の充実

自己評価による達成レベル ○：達成 △：一部達成 ×：未達成

NTT Communications Corporation Sustainability Report 2023

CONTENTS

トップコミットメント

事業戦略

私たちが目指す社会

特集

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティ

サステナブルな未来を創造する
企業グループを目指して

サステナビリティ基本方針と
「まだ見ぬコミュニケーションの創造」

サステナビリティマネジメント

- サステナビリティ推進体制とガバナンス、リスク管理、戦略、指標・目標
- 指標・目標と活動の成果
- NTTコミュニケーションズグループのバリューチェーンを通じたサステナブルな未来実現に向けた取り組み
- NTTグループとの関係／外部との関係



社会



環境



人材



ガバナンス

第三者保証

企業情報



2022年度

主要推進事項	指標 (KPI)	振り返り	評価	今後に向けて
個人情報の適正管理	定量 重大な個人情報漏洩件数：0件	0件 ● 個人情報に関する管理組織の一元化・明確化および利用者目線に立った内容のシンプル化などを目的とした個人情報関連規程の整理統合 ● 適切なデータ利活用の推進に向けたPIA (Privacy Impact Assessment) 制度の導入	○	個人情報管理台帳のオンライン化による一元的把握、共有フォルダなどに散在している個人情報の適切な消去運用、社内の管理状況モニタリングの継続などを通じ、実効性のあるライフサイクルマネジメントのさらなる確立を推進

2023年度

主要推進事項	指標 (KPI)
—	—

自己評価による達成レベル ○：達成 △：一部達成 ×：未達成



NTT Communications Corporation Sustainability Report 2023

CONTENTS

トップコミットメント

事業戦略

私たちが目指す社会

特集

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティ

サステナブルな未来を創造する企業グループを目指して

サステナビリティ基本方針と「まだ見ぬコミュニケーションの創造」

サステナビリティマネジメント

- サステナビリティ推進体制とガバナンス、リスク管理、戦略、指標・目標
- 指標・目標と活動の成果
- NTTコミュニケーションズグループのバリューチェーンを通じたサステナブルな未来実現に向けた取り組み
- NTTグループとの関係／外部との関係



社会



環境



人材



ガバナンス

第三者保証

企業情報

NTTコミュニケーションズグループのバリューチェーンを通じたサステナブルな未来実現に向けた取り組み

NTTコミュニケーションズグループでは、事業活動が、バリューチェーン全体で社会や環境にどのような影響をもたらすかを把握し、サステナビリティ基本方針に沿って、SDGsと照らし合わせながら、改めて対応すべき主要事項を明確にしています。

SDGsの達成、そして、サステナブルな未来の実現に向けて、バリューチェーンパートナーシップの充実を図りつつ、事業活動を通じて、社会への正の影響を強化し、負のリスク・影響を最小化すべく、これらの主要事項の取り組みを進めていきます。

4つの重点領域 ◆ 社会 ◆ 人材 ◆ 環境 ◆ ガバナンス



- サステナビリティ推進体制とガバナンス、リスク管理、戦略、指標・目標
- 指標・目標と活動の成果
- NTTコミュニケーションズグループのバリューチェーンを通じたサステナブルな未来実現に向けた取り組み
- NTTグループとの関係／外部との関係



社会



環境



人材



ガバナンス

第三者保証

企業情報



NTTグループとの関係

グループ体でのサステナビリティの推進

NTTコミュニケーションズでは、NTTグループの一員として、2021年11月に「NTTグループCSR憲章」より改訂された「NTTグループサステナビリティ憲章」にもとづき、グループ体での社会的課題の解決に取り組んでいます。NTTグループではこれに伴い、代表取締役社長を委員長とする「サステナビリティ委員会」を設置し、サステナビリティに関する基本戦略、活動の実施状況、情報開示について議論するなど、取り組みを推進しています。弊社グループも事業会社として参加し、委員会での決議事項については活動内容に反映していきます。

また、NTTグループでは、サステナビリティの取り組みに関する理解および促進を目的として、2013年度より「NTTグループサステナビリティカンファレンス」を開催しています。弊社グループは同カンファレンスで2016年度から連続して表彰されています。2022年度も積極的にサステナビリティの観点で貢献する施策やサービス事例を共有・報告しています。

「NTTグループサステナビリティ憲章」の詳細はこちらをご覧ください。
<https://group.ntt.jp/newsrelease/2021/11/10/211110d.html>

【サステナビリティカンファレンスの様子】



外部との関係

外部団体への参加

NTTコミュニケーションズでは外部団体・組織への参加を積極的に行い、情報共有を行うことで社内の枠組みを超え、社会課題の解決につながる取り組みの共有を図っています。

外部団体への参加状況(主な団体のみ掲載)

- ・気候変動イニシアティブ(JCI)
- ・ジャパン・サーキュラー・エコミー・パートナーシップ(J-CEP)
- ・グリーン購入ネットワーク(GPN)
- ・一般社団法人沖縄オープンラボラトリー(理事)
- ・一般社団法人高度ITアーキテクト育成協議会(理事)
- ・一般社団法人インターネットコンテンツセーフティ協会(ICSA)(理事)
- ・一般社団法人セキュリティ対策推進協議会(SPREAD)

社外から経営陣へのアドバイザー

多様なステークホルダーの視点を適切に加味した経営の実現は重要な責務であると考えています。この考えに即し、各役員は、事業を通じた日常的な対話に加え、内

外の会合への参加や個別面談などを積極的に行っています。特に事業戦略にサステナビリティの視点を加味するうえで内外の専門家・有識者との意見交換が重要であると考え、「経営陣と外部有識者のダイアログ」を継続的に実施しています。2022年度は企業と連携したプロボノ活動で多くの実績を持つ認定NPO法人サービスブランド代表理事・嵯峨生馬氏をお招きし、社員それぞれのコーポレートシチズンシップの推進をテーマにCSR委員長を含めたグループ社員4名とのダイアログを実施しました。なお、経営陣からサステナビリティ戦略の推進業務を委任されている各部門担当者が継続的に実施する有識者レベルのダイアログの内容についても、サステナビリティ委員会などの場を通じて経営陣に適宜共有しています。



「経営陣と外部有識者のダイアログ」の詳細はこちらをご覧ください。
https://www.ntt.com/about-us/csr/dialog/dialog_2022.html